



県内(地域・業種別)の経営環境と業況感(2010年4~6月期見通し・2010年度見通し)

～第39回おきぎん企業動向調査(2010年1~3月期)調査結果より～

I. はじめに

1. 調査の結果と推移

業況DIの推移

期間・結果 項目	2009年								2010年			
	1-3月期		4-6月期		7-9月期		10-12月期		1-3月期		4-6月期(見通し)	
	DI	前期比	DI	前期比	DI	前期比	DI	前期比	DI	前期比	DI	前期比
全業種計	△16.7	-	△14.6	+	△4.7	+	△5.6	-	0.2	+	3.1	+
製造業	△17.6	-	△10.9	+	8.5	+	△5.1	-	△7.7	-	0.0	+
土木業	△20.0	-	△7.9	+	0.0	+	22.5	+	9.5	+	△11.9	-
建築業	△5.1	-	△13.0	-	△1.5	+	0.0	+	5.0	+	15.0	+
卸売業	△22.1	+	△18.0	+	△17.0	+	△13.4	+	△5.6	+	△4.5	+
小売業	△23.4	-	△15.0	+	△8.3	+	△5.5	+	0.0	+	8.7	+
情報サービス業	△18.2	+	△25.0	-	0.0	+	△16.7	-	36.4	+	18.2	+
その他サービス業(ホテル等)	△15.8	-	△2.9	+	3.0	+	8.3	+	1.7	-	13.8	+
その他(不動産、運輸・通信業等)	△13.2	+	△24.7	-	△7.1	+	△21.3	-	△1.0	+	△2.0	+

注)プラスマイナスの符号は、前期比で比較

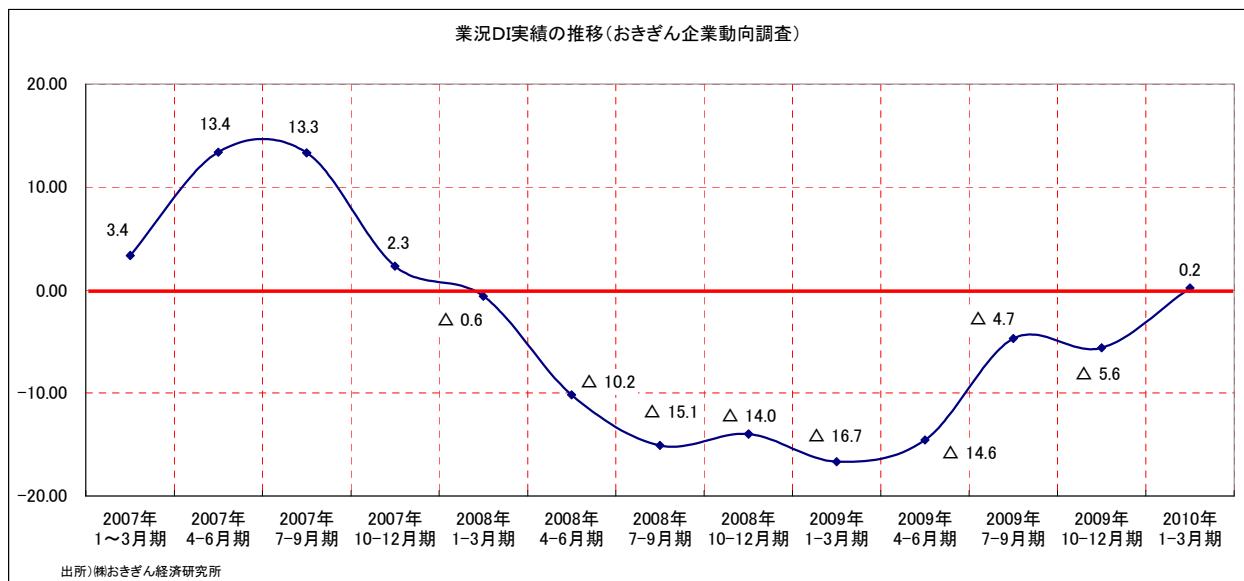
※今回調査

2010年1-3月期調査の業況DIは0.2となりました。

当期の業種別DIは過去最低であった2009年1-3月期(△16.7)との比較であり、前年同期と比較すると景況感は緩やかに回復に向かっているようです。

業種別で見ると、土木業、建築業、情報サービス業、その他サービス業で業況改善の動きが見られます。一方で製造業、卸売業、小売業、その他において業況の弱さが見られます。

2010年4-6期の業況見通しDIについては3.1となり、多くの業種において、業況の改善が見込まれています。



2. 調査の概要: 本調査は業界の業況や売上高、売上・仕入単価、収益面等の経営状況項目について、主に経営者の判断(当期実績、次期見通し)をDI(景気動向指数)として取りまとめたものです。

- a. 調査時期: 2010年1月～3月
- b. 調査対象: 県内企業 511社
- c. 調査内容: ①業況 ②売上高 ③売上単価 ④仕入単価 ⑤採算 ⑥引き合い(受注)
⑦雇用 ⑧IT関連投資 ⑨その他の投資(IT以外への投資)

—おきぎんDIについて—

主に企業経営者の業況などに関する実績判断や見通しを「好転・上昇・増加」、「不変(変わらない)」、「悪化・低下・減少」のいずれかでお答えいただき、それらの割合を表したものです(本レポートでは方向性を示すため「悪化・低下・減少」はマイナス表示を用いています)。

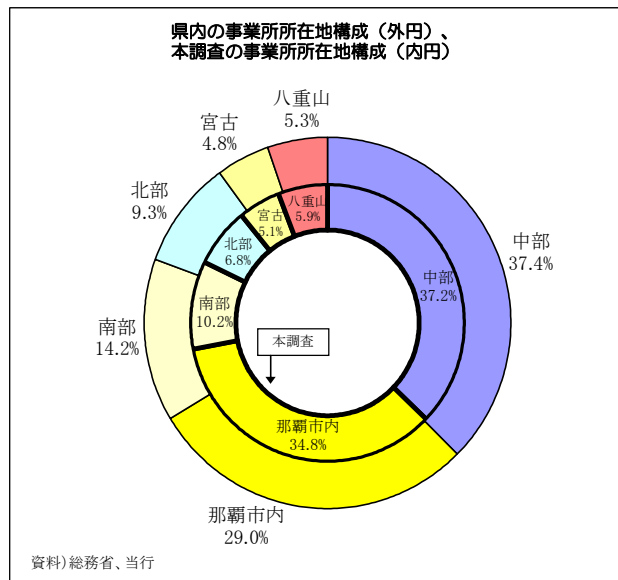
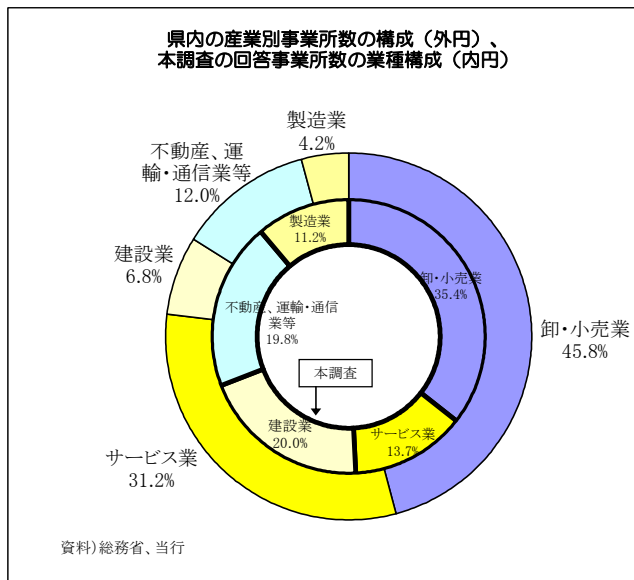
①「好転・上昇・増加」+「不変(変わらない)」+「悪化・低下・減少」=100%

②DI=「好転・上昇・増加」の割合(%)－「悪化・低下・減少」の割合(%)

上記①、②から、DIがプラスなら景気が良い(または上昇見込み)、マイナスなら悪い(または下降見込み)といった具合にご覧いただけます。

3. 調査対象企業の業種・所在地構成

県内の産業別事業所数および事業所所在地構成(2006年事業所・企業統計調査)と比較すると、本調査は卸・小売業、サービス業が少なく、建設業(本調査では建築・土木業)、不動産、運輸・通信業等、製造業が多いサンプリングになっています。なお所在地は、中部、那覇市内で7割を超えるシェアとなっています。

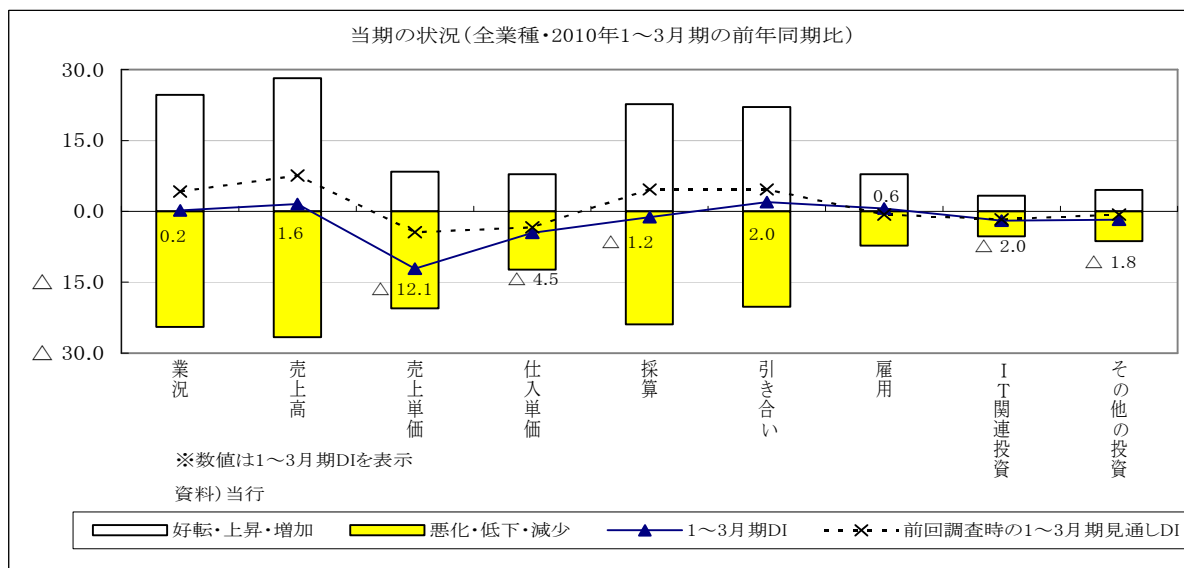


II. 調査結果(1) ～おきぎん DI: 県内の経営環境と業況感について～

1. 全業種

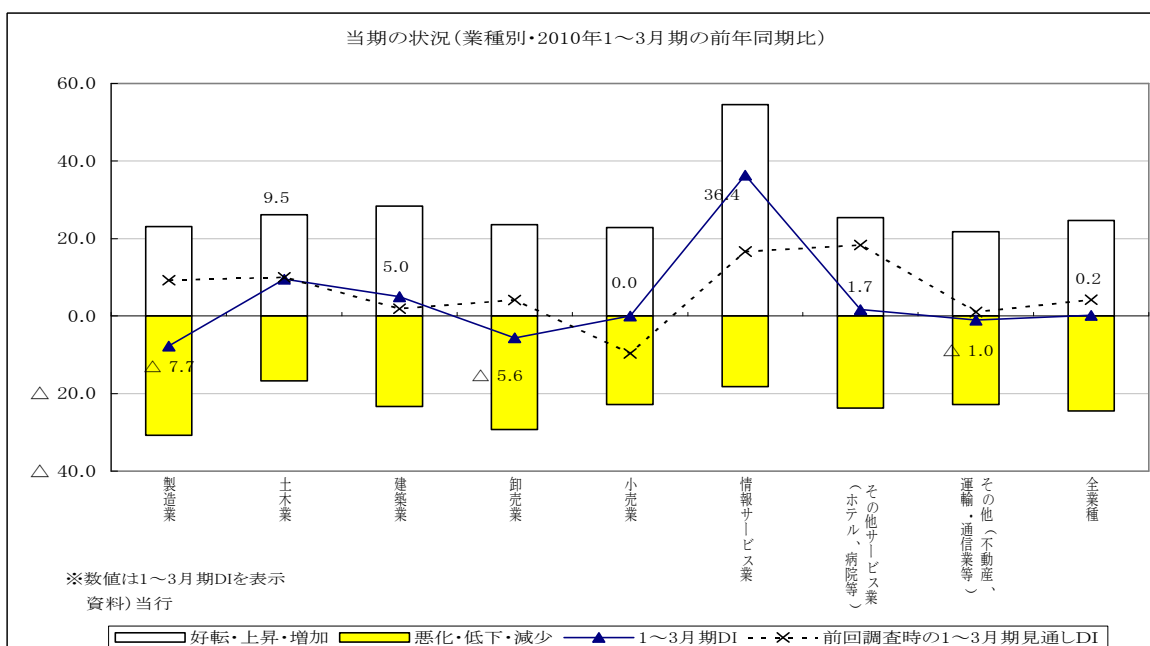
a. ①当期の状況(項目別・2010年1～3月期の前年同期比)

実線で示している当期(2010年1～3月期)のDIを見ると、仕入単価(△4.5)は低下していますが、売上単価(△12.1)の調整により売上高(1.6)を確保する動きは続き、採算(△1.2)は低下しています。引き合い(2.0)は回復してきており、雇用(0.6)も若干の改善がみられます。業況DI(0.2)は、全体として**改善の動き**が見られます。



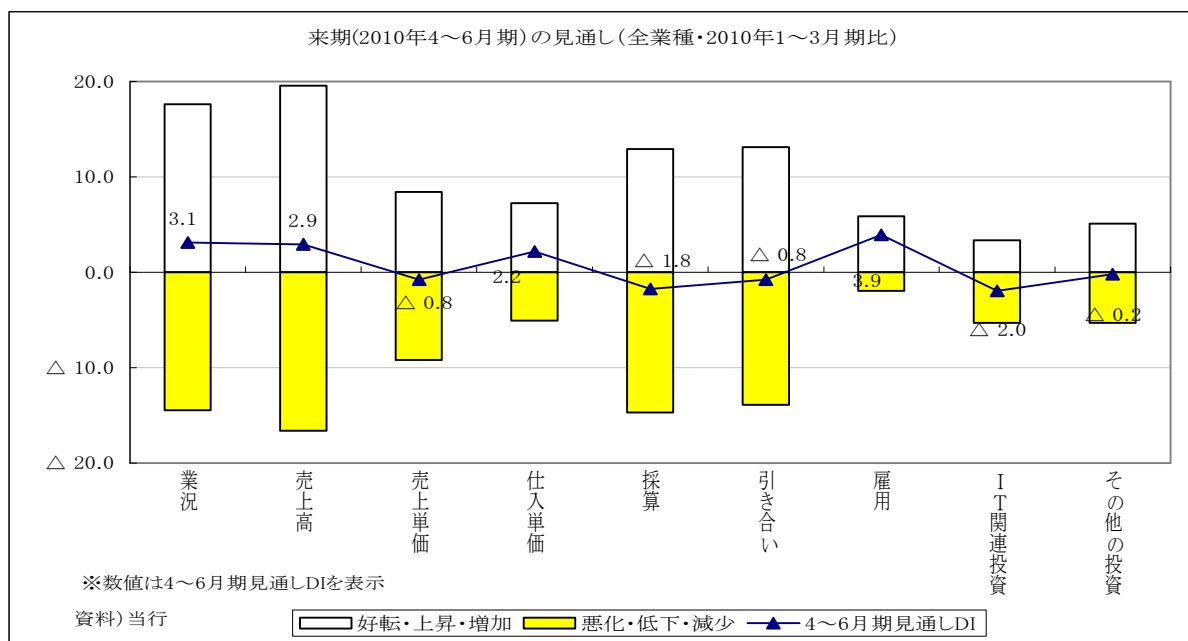
a. ②当期の状況(業種別・2010年1～3月期の前年同期比)

当期の状況を業種別に見た場合、公共工事の増加により土木業(9.5)、建築業(5.0)は業況改善の動きがみられます。情報サービス業(36.4)も地方公共団体からの受注が増加しています。その他サービス業(1.7)は、医療・介護関連産業が好調に推移しています。一方で消費動向が弱いなか、製造業(△7.7)、卸売業(△5.6)、小売業(0.0)、その他(△1.0)は**業況の弱さ**が続きます。



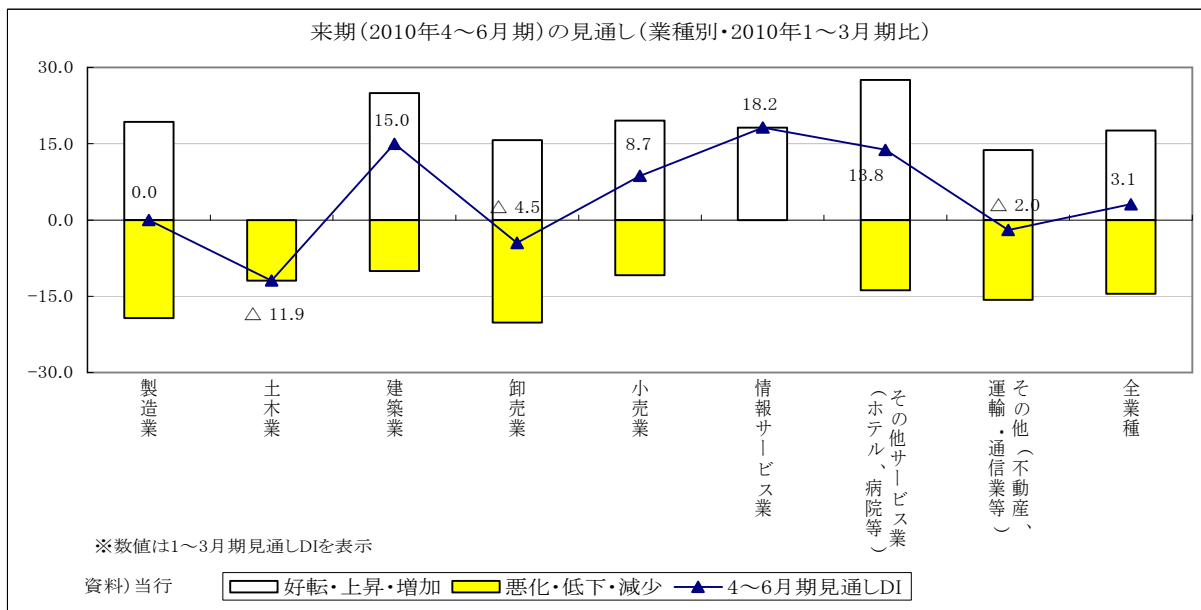
b.①来期の見通し(項目別・2010年4～6月期の2010年1～3月期比)

来期(2010年4～6月期)の見通しDIを見ると、建設関連の需要が減少する時期となり、引き合い(△0.8)となりますが、景気回復の期待感から多くの業種で好転することを見込み、売上高(2.9)、業況(3.1)となっています。また、新規開拓などの営業強化の動きにより、雇用(3.9)の改善も見込みます。上下のグラフの伸びが示すように、全体として厳しさと期待感が入り混じる中、各項目とも業況見通しDIは小幅な動きとなっています。



b.②来期の見通し(業種別・2010年4～6月期の2010年1～3月期比)

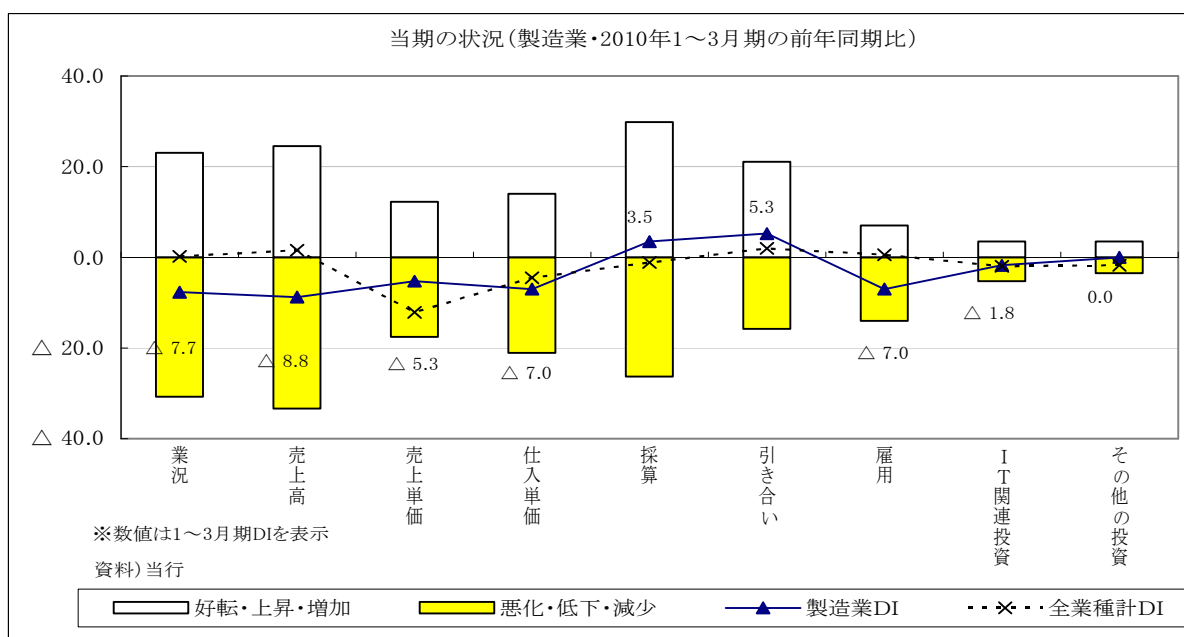
来期の見通しを業種別に見ると、観光客数の増加や消費動向の改善が期待され、小売業、情報サービス業、その他サービス業が改善の動きを見込みます。建築業は公共工事の閑散期ながらも、徐々に個人住宅などの相談案件も増えつつあり、民間需要の増加が期待されます。一方で、売上単価の低下が続くなか、卸売業は厳しい見通しとなり、公共工事受注が中心となる土木業においても需要の低下が見込まれています。



2. 製造業

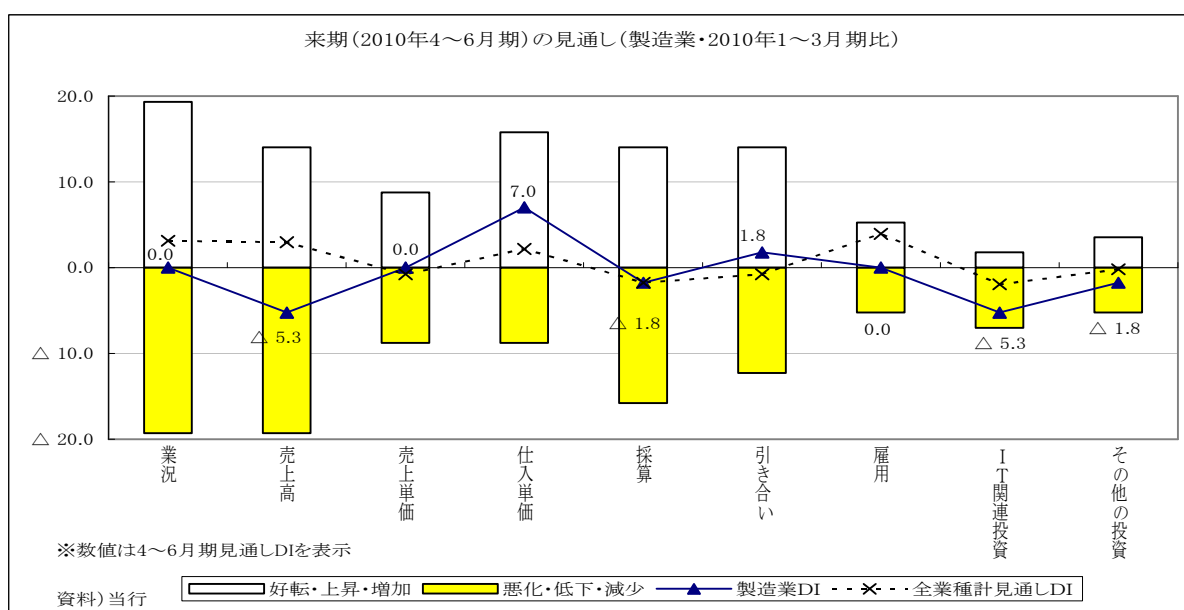
a. 当期の状況 (2010年1～3月期の前年同期比)

製造業DIを見ると、売上単価(△5.3)は低下したものの仕入単価(△7.0)も低下し採算(3.5)は改善されています。季節的要因もあり、県内向け出荷は比較的堅調に推移していますが、食料品や泡盛、衣服等県外市場向け商品や観光関連商品において売上高が伸び悩み、製造業全体として業況の弱さが見られます。



b. 来期の見通し (2010年4～6月期の2010年1～3月期比)

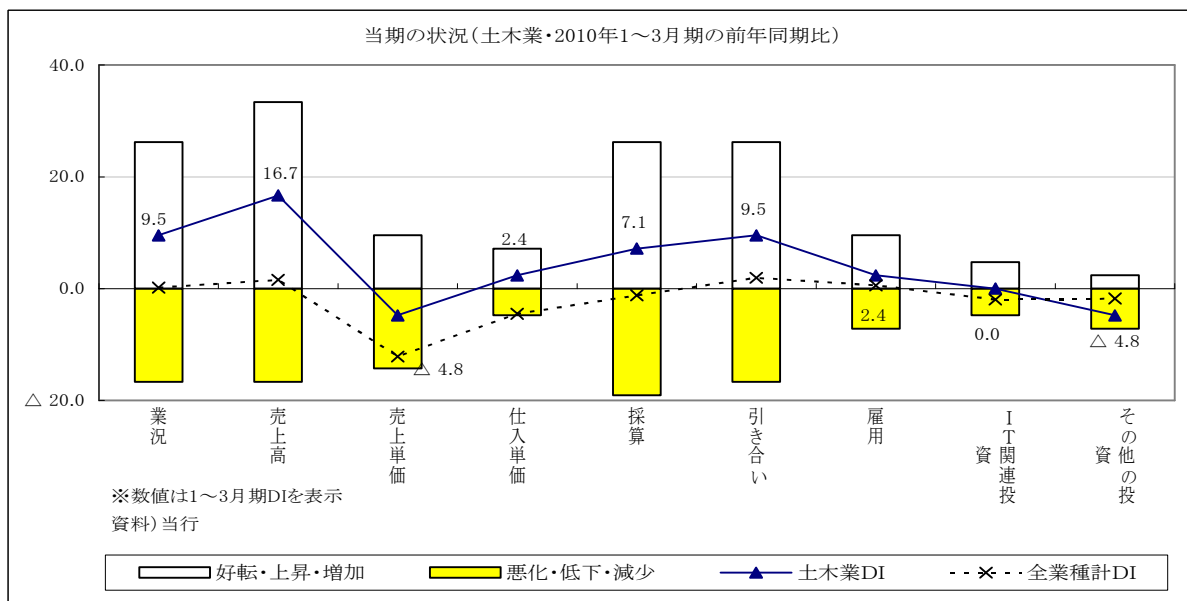
来期の見通し製造業DIを見ると、原油価格や小麦・砂糖などの原材料価格の動向が不透明感を示し仕入単価(7.0)が上昇し採算(△1.8)が低下すると見込みます。入学・就転職等の季節需要が見込まれるものの、建設関連(二次製品等)において公共工事が減少する時期となり、売上は(△5.3)は伸びず、製造業全体として好転・悪化が入り混じる動きが見られます。



3. 土木業

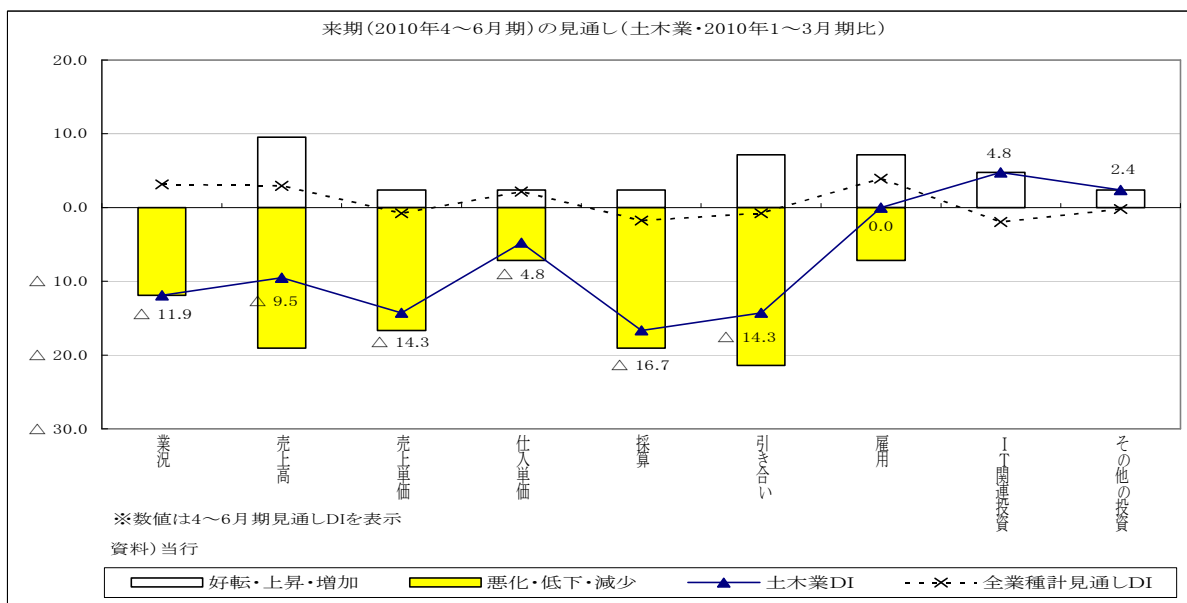
a. 当期の状況 (2010年1～3月期の前年同期比)

土木業DIを見ると、公共工事のピーク期であり、引き合い(9.5)、売上高(16.7)は増加しています。競合により売上単価(△4.8)は低下するものの、工事受注増加にあわせ、これまで経費削減を進めてきた結果として採算(7.1)は上昇しています。競合により受注環境は厳しい状況が続くものの、土木業全体として業況改善の動きが見られます。



b. 来期の見通し (2010年4～6月期の2010年1～3月期比)

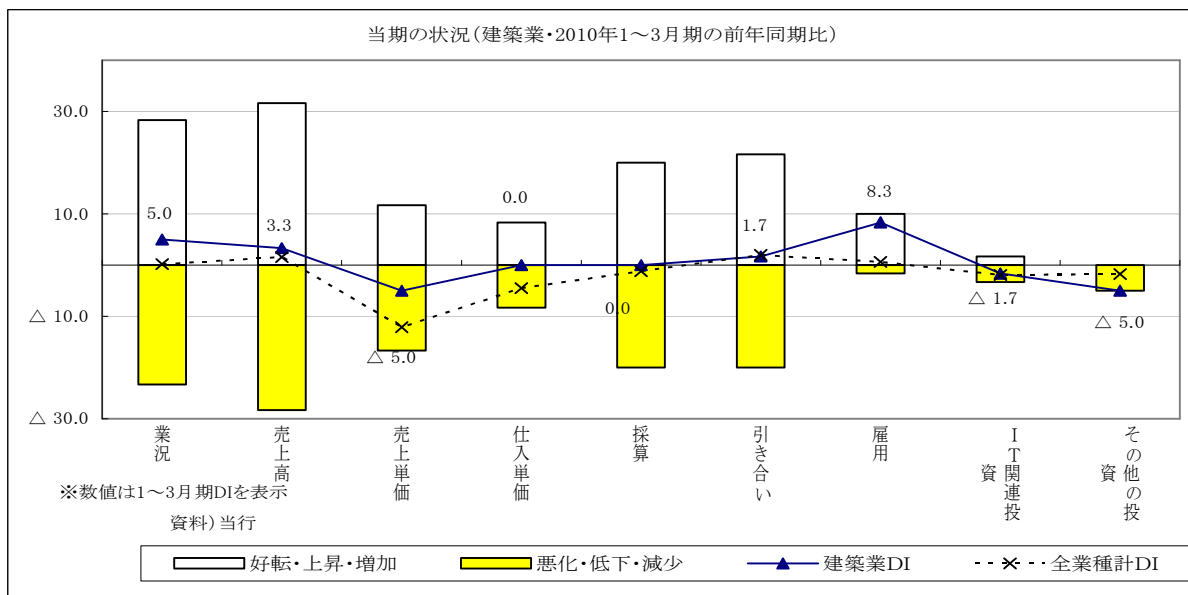
来期の見通し土木業DIを見ると、一部において手持繰越工事等にて業況は安定的に推移するものの、年度初めの4～6月期は公共工事の発注が減少する時期であり、業況(△11.9)、売上高(△9.5)、採算(△16.7)、引き合い(△14.3)と各項目において低下すると見込み、土木業全体として業況の弱さが見られます。



4. 建築業

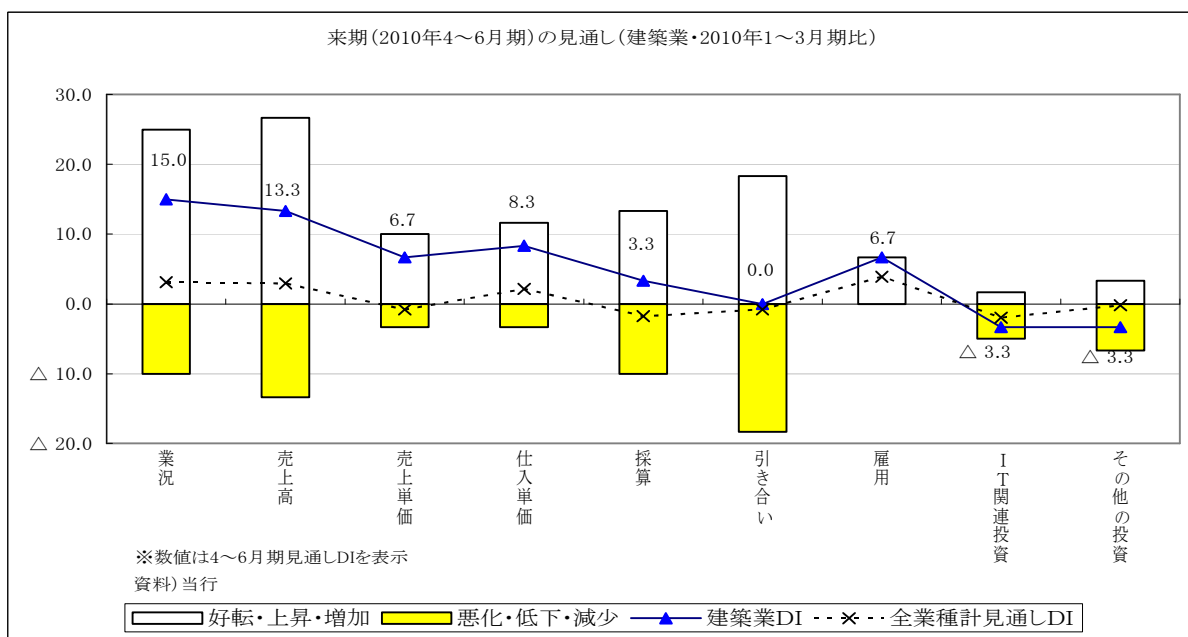
a. 当期の状況 (2010年1～3月期の前年同期比)

建築業 DI を見ると、土木業同様に公共工事の最需要期であるものの個人住宅等の民間部門が低調で引き合い(1.7)は土木業と比較し伸び悩みます。売上単価(△5.0)は低下しているものの、原材料価格も落ち着きをみせており、公共工事の増加により売上高(3.3)、業況(5.0)は改善され、建築業全体として業況改善の動きが見られます。



b. 来期の見通し(2010年4～6月期の2010年1～3月期比)

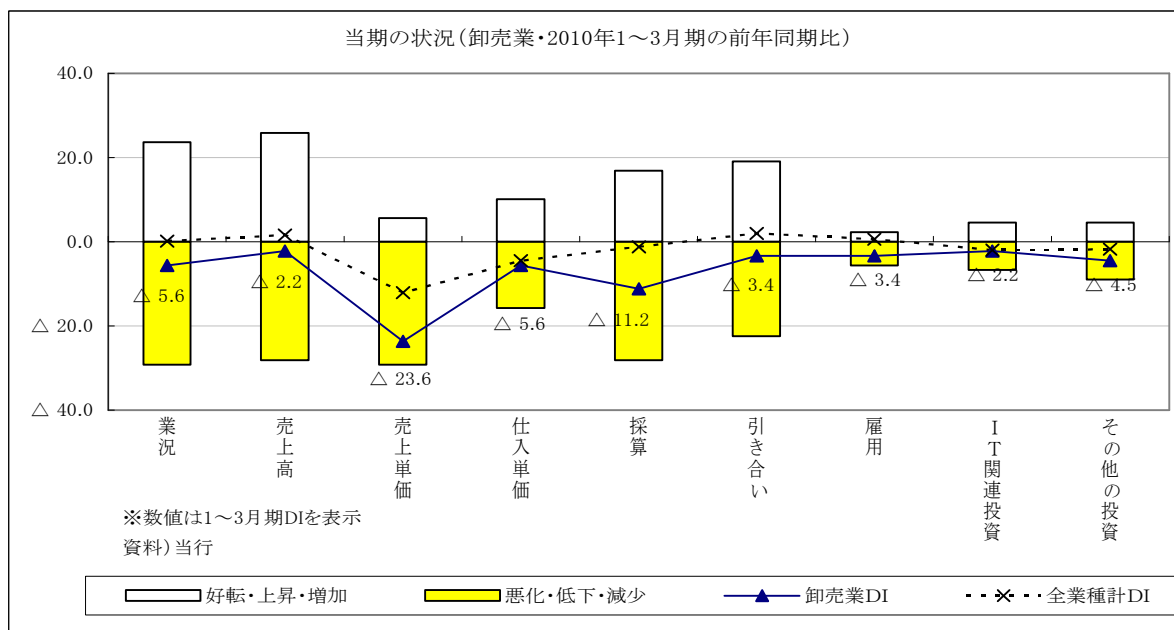
来期の見通し建築業 DI を見ると、土木業と同様に公共工事は3月がピークとなり4～6月期は需要が減少する時期となりますが、民間需要が緩やかに増加傾向にあるため引き合いは0.0となります。民間部門への営業強化を継続することで、売上高(13.3)と業況(15.0)は改善の見込みです。引続き投資関連は抑えられるものの、建築業全体として業況改善の動きが見られます。



5. 卸売業

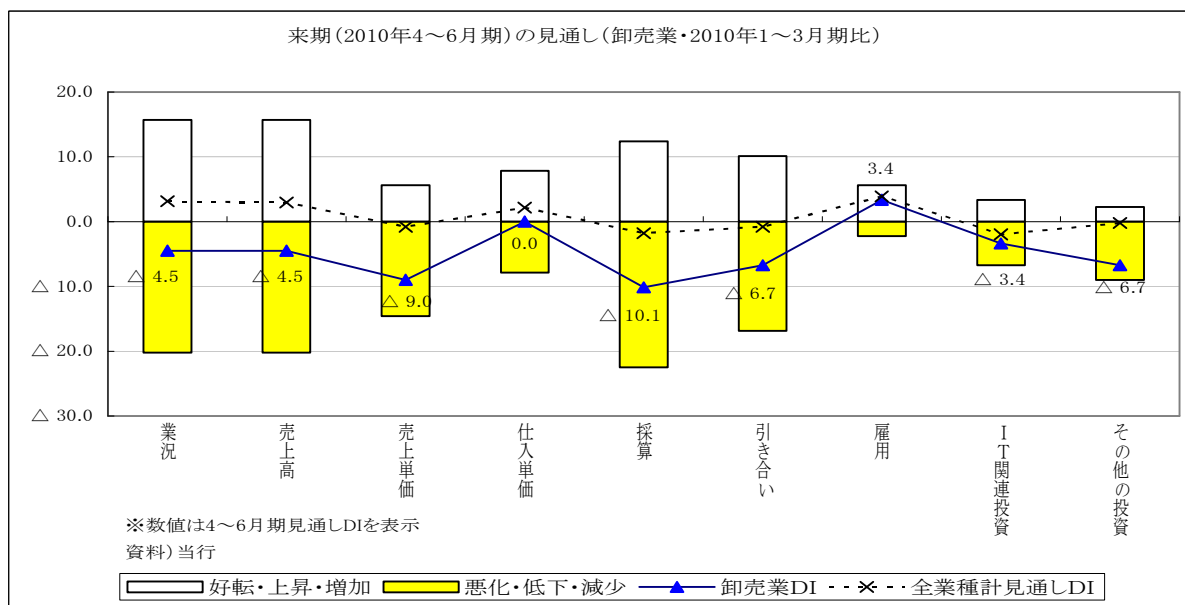
a. 当期の状況 (2010年1～3月期の前年同期比)

卸売業 DI を見ると、円高等の影響から仕入単価(△5.6)は低下しているものの引き合い(△3.4)の弱さから売上単価(△23.6)の調整にて対応する動きが続いています。正月・旧正月と季節需要はあったものの、売上単価の低下から売上高(△2.2)は伸びず、雇用調整等の経費削減が行われています。卸売業全体として**業況の弱さ**が見られます。



b. 来期の見通し (2010年4～6月期の2010年1～3月期比)

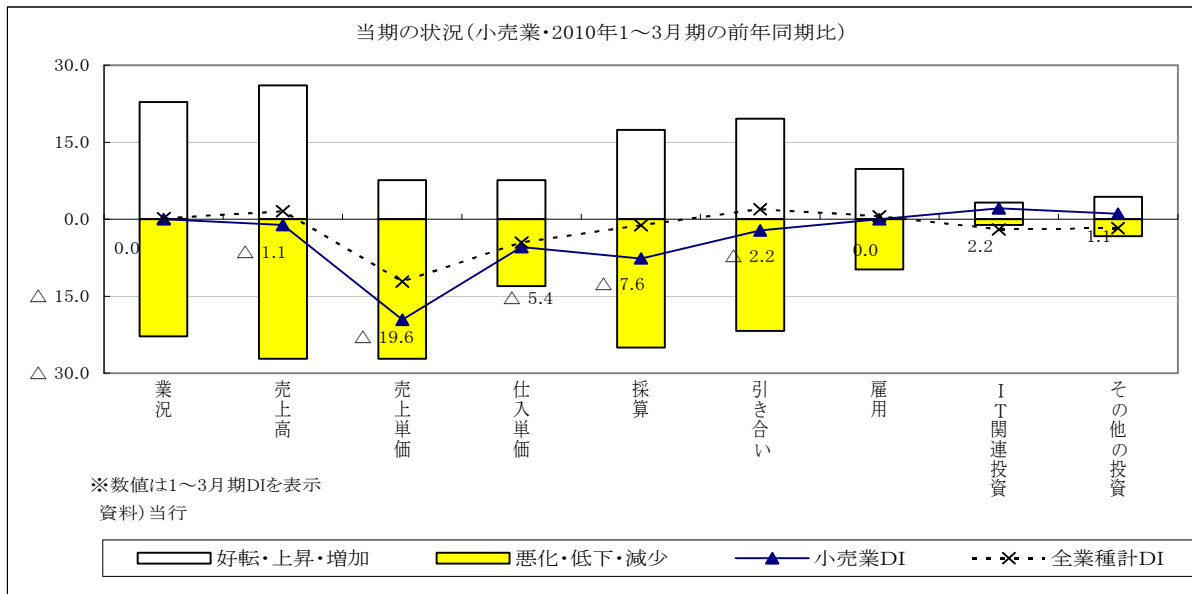
来期の見通し卸売業DIを見ると、消費の冷え込みに加え公共工事が減少する時期であり建設関連資材の需要も落ち込むことが予想されています。原材料価格の上昇も懸念され、引き合い(△6.7)、採算(△10.1)、売上高(△4.5)、業況(△4.5)と厳しい見通しとなります。借入金の条件変更も検討されています。卸売業全体としては**業況の弱さ**が見られます。



6. 小売業

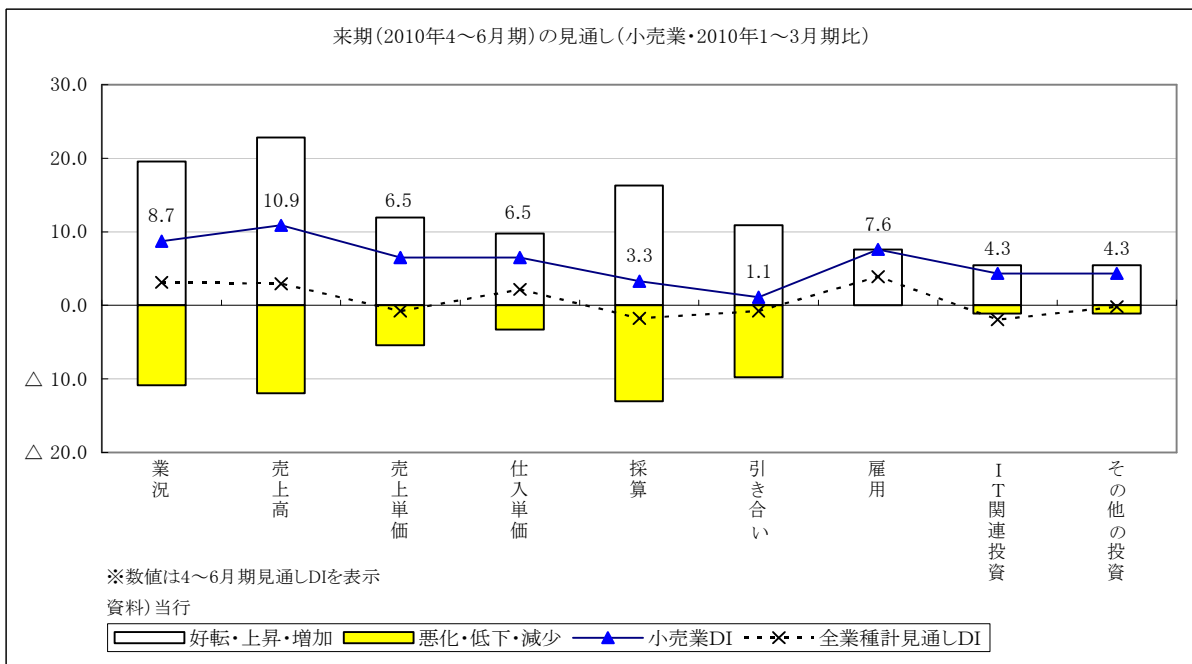
a. 当期の状況 (2010年1～3月期の前年同期比)

小売業DIを見ると、売上単価(△19.6)はデフレの傾向が続き、採算(△7.6)は悪化しています。政府の消費刺激策などにより一部の業種においては好調に推移していますが、観光客数の減少などから全体的に引き合い(△2.2)の弱さがみられます。人件費の削減やインターネットの活用、新店舗の出店などによる改善努力を行うものの、小売業全体では**業況の弱さ**が見られます。



b. 来期の見通し (2010年4～6月期の2010年1～3月期比)

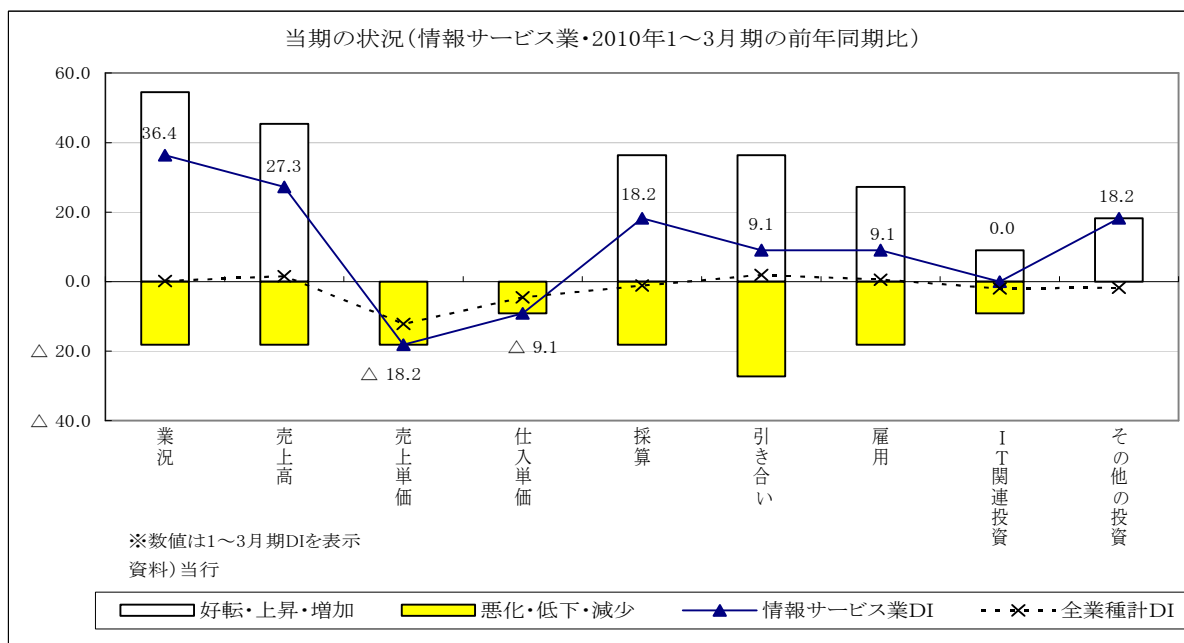
来期の見通し小売業DIを見ると、新年度による消費需要の増加に加え、観光客数の増加が期待され、引き合い(1.1)、売上高(10.9)と改善を見込みます。販売価格等については、継続的に価格交渉を行い採算(3.3)の確保を目指します。自動車関連でトヨタリコール問題など懸念事項はあるものの、小売業全体では**業況改善の動き**が見られます。



7. 情報サービス業

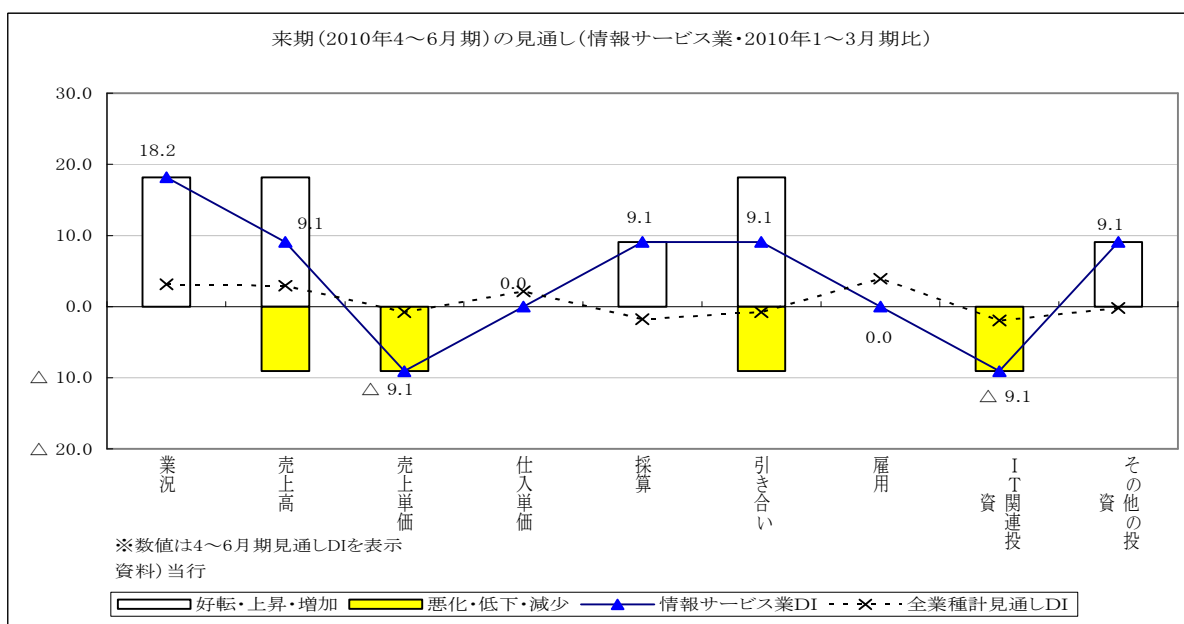
a. 当期の状況 (2010年1～3月期の前年同期比)

情報サービス業DIを見ると、県や国などの地方公共団体からの業務受注が増加しています。売上単価(△18.2)は低下していますが、引き合い(9.1)の増加により売上高(27.3)、採算(18.2)は上昇しています。広告数等は引続き低調に推移していますが、経費削減努力などもあり、情報サービス業全体として業況改善の動きが見られます。



b. 来期の見通し (2010年4～6月期の2010年1～3月期比)

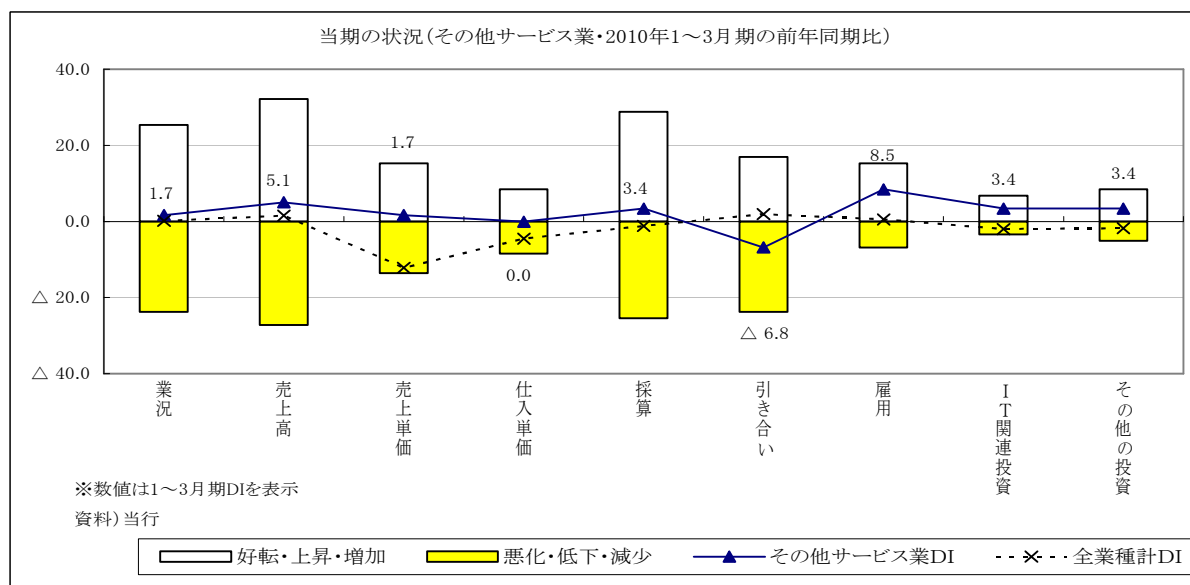
来期の見通し情報サービス業DIを見ると、景気の低迷からIT投資の環境は先行き不透明感があるものの、引続き引き合い(9.1)は増加が見込まれ、売上高(9.1)も順調に推移する見通しです。情報サービス業全体として業況改善の動きが見られます。



8. その他サービス業(病院、ホテル、飲食店、ゴルフ場、遊戯場、映画館、結婚式場等)

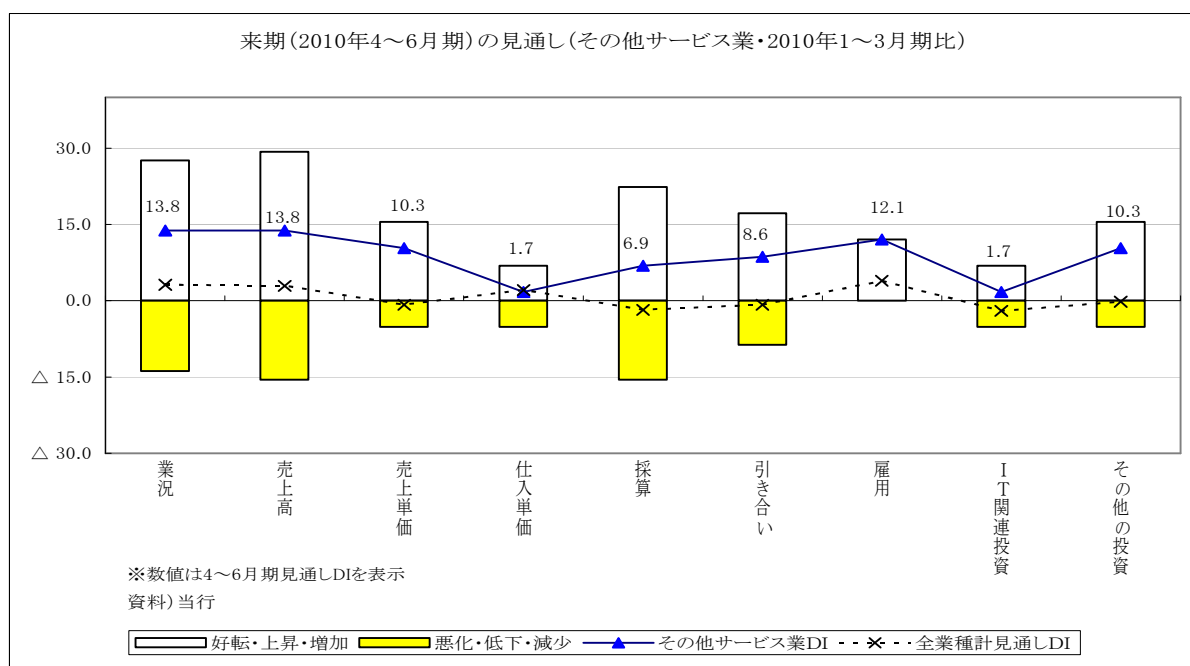
a. 当期の状況(2010年1~3月期の前年同期比)

その他サービス業DIを見ると、観光客数減少の影響などからホテル宿泊業や飲食店においては、引続き厳しい状況が続きます。一方で、季節的な需要が増える教育産業や医療・介護関連業界は好調に推移しています。新規投資の動きも活発化しており、その他サービス業全体としては**業況改善の動き**が見られます。



b. 来期の見通し(2010年4~6月期の2010年1~3月期比)

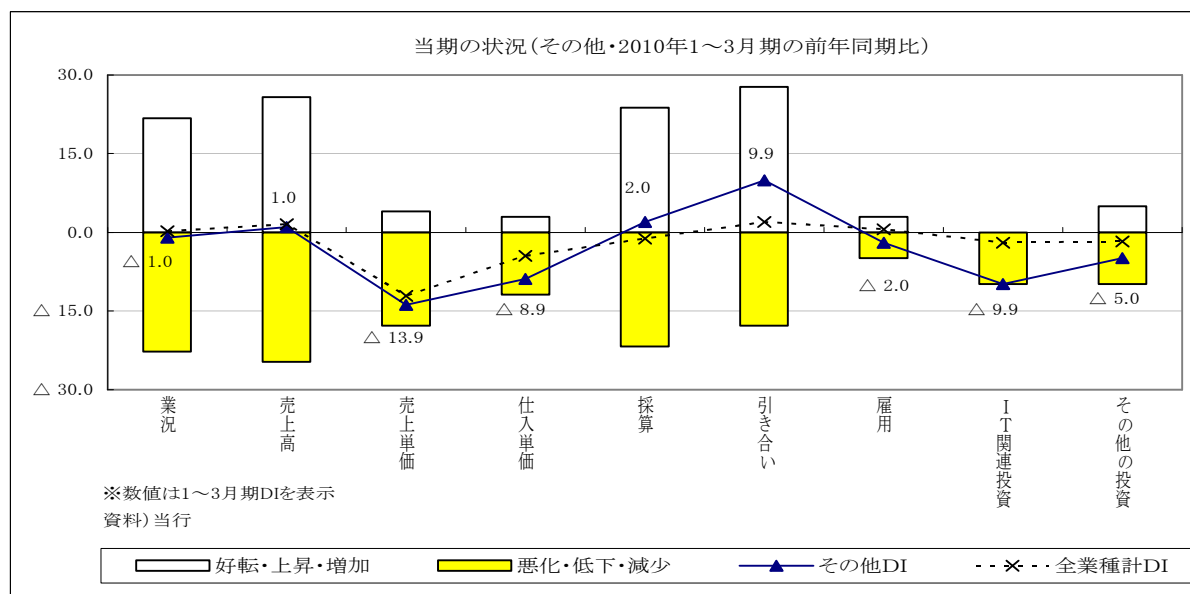
来期の見通しその他サービス業DIを見ると、ゴールデンウィークの時期であり、観光客数の増加が期待され業況(13.8)、売上高(13.8)、採算(6.9)、引き合い(8.6)などで上昇が見込まれます。医療業界でも診療報酬改定などにより増収が見込まれています。一方で葬祭関係は需要減少が見込まれます。サービス業全体として**業況改善の動き**が見られます。



9. その他(不動産、運輸・通信業、測量・設計・コンサル等)

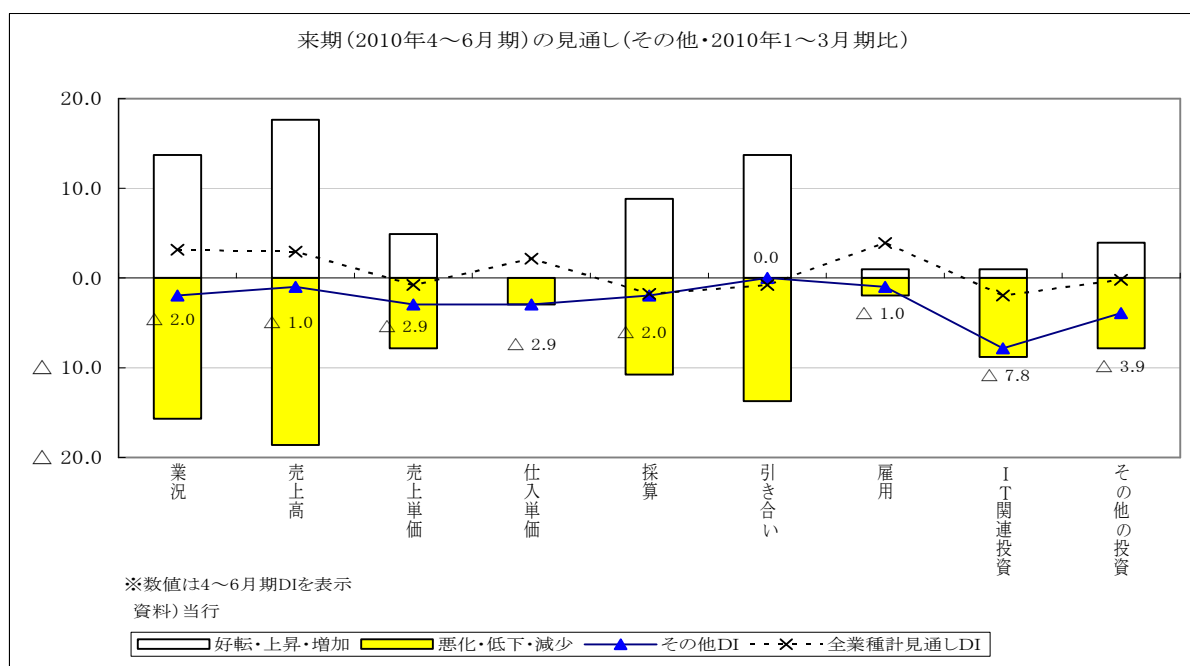
a. 当期の状況(2010年1~3月期の前年同期比)

その他DIを見ると、前年同期と比較すると引き合い(9.9)は増加傾向にあるものの、依然、不動産関連、運輸・通信関連、物流関連で売上単価(△13.9)が低下し売上高(1.0)も伸び悩んでいます。雇用(△2.0)についても低調で、人件費やその他投資を抑制する動きとなっています。その他全体としては**業況の弱さ**が見られます。



b. 来期の見通し(2010年4~6月期の2010年1~3月期比)

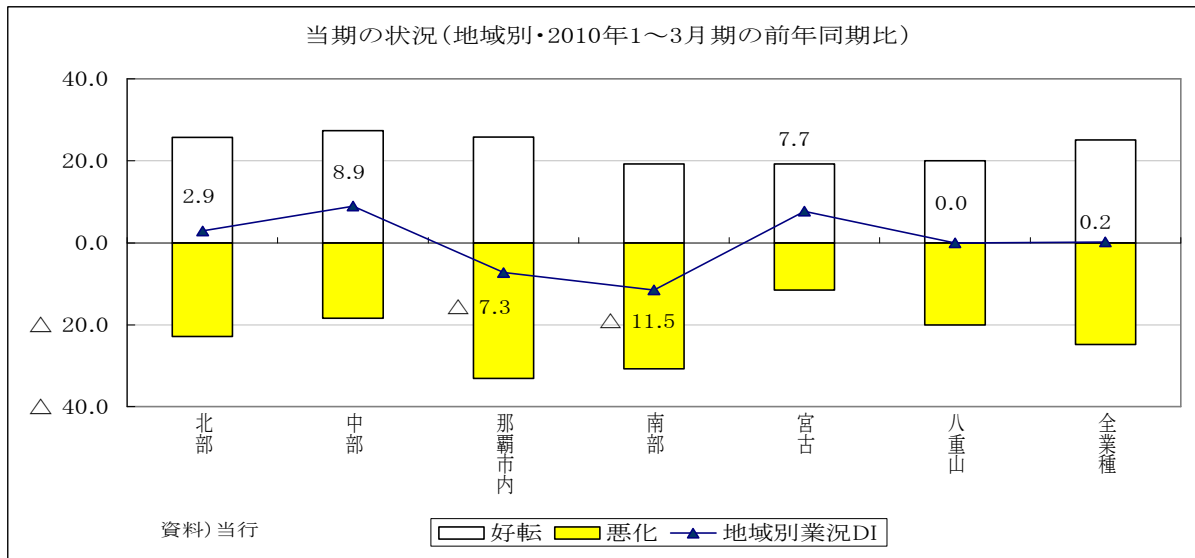
来期の見通しその他DIを見ると、引続き景気の先行き不透明感から不動産投資や貨物流通量の動きは弱いものと見込まれており、業況(△2.0)、売上高(△1.0)、売上単価(△2.9)、採算(△2.0)、雇用(△1.0)など各項目において低下を見込み、引続き経費削減等の対応が求められています。その他全体として**業況の弱さ**が見られます。



Ⅲ. 調査結果(2) ～地域別の業況DI～

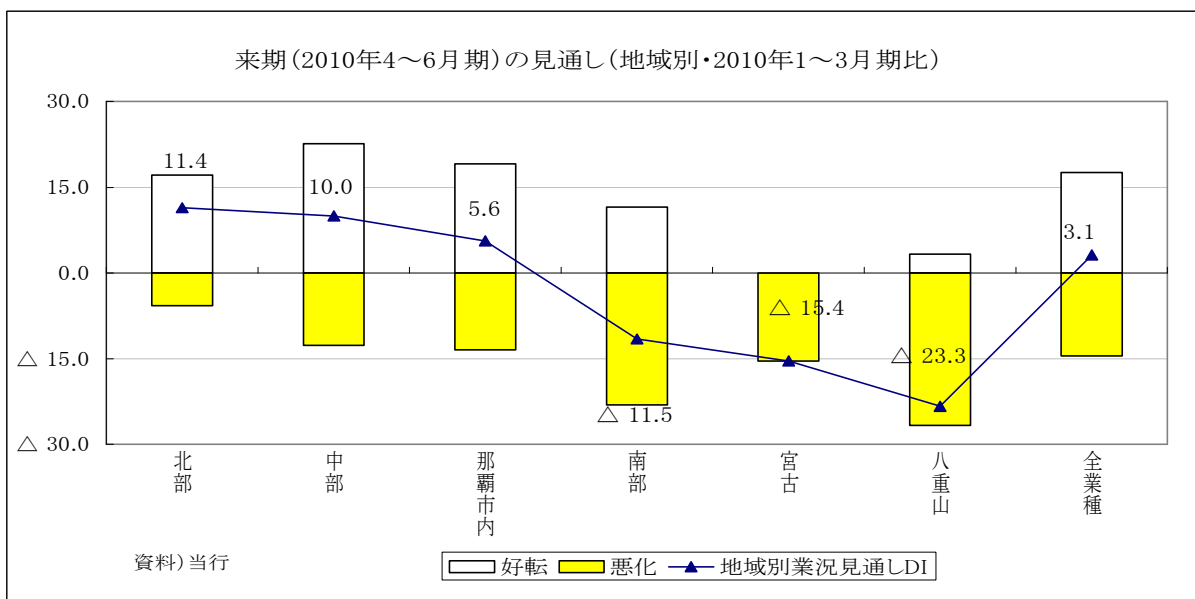
1. 当期の状況(2010年1～3月期の前年同期比)

地域別業況DIを見ると、北部、中部、宮古で上昇しています。建設関連業種のウエイトが比較的高い北部や宮古では改善の動きがみられ、中部は各産業のバランスが良く、改善傾向となります。一方、悪化傾向にある那覇市内や南部ですが、卸売業や小売業、ホテル、飲食店などが多く、消費低迷の影響を受け、建設関連においても競合が強い地域で厳しさが続いています。



2. 来期の見通し(2010年4～6月期の2010年1～3月期比)

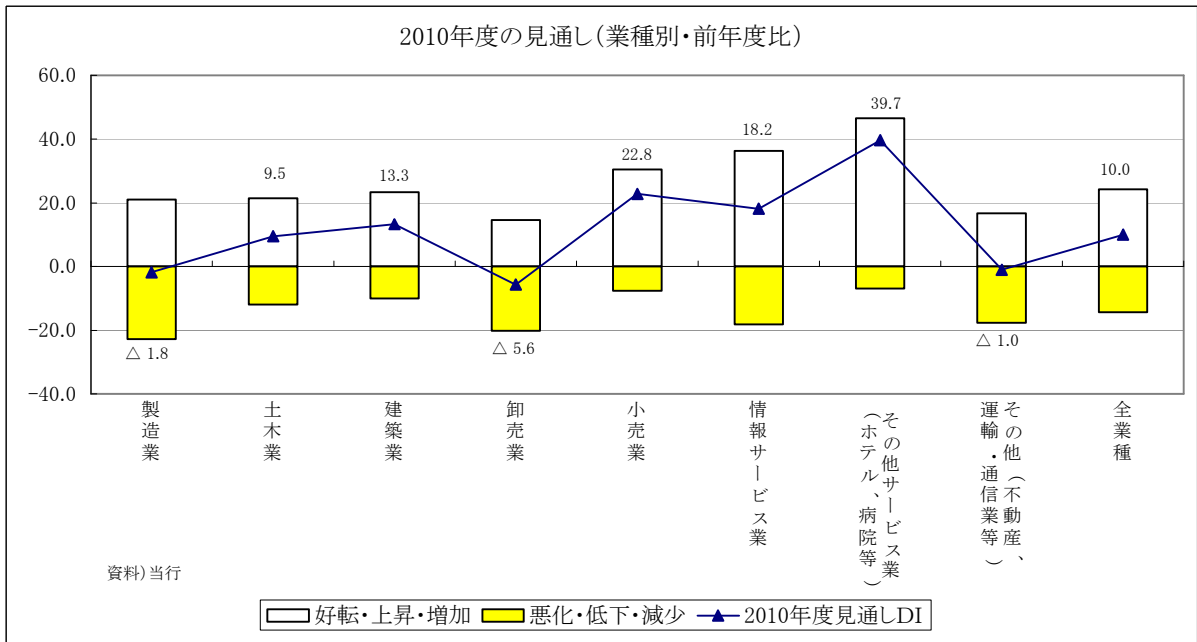
来期の業況見通しDIを見ると、建設関連需要の高い南部や宮古、八重山地区などで低下を見込みます。観光需要の増加や消費の回復が期待される那覇市内や中部地区などでは改善の動きが、北部では建設関連は横ばいで小売業などでは観光客数の増加などによる消費動向改善の動きが期待されています。全業種では3.1と改善の動きが見込まれます。



IV.調査結果(3) ～2010年度の見通しDI (2009年度比)～

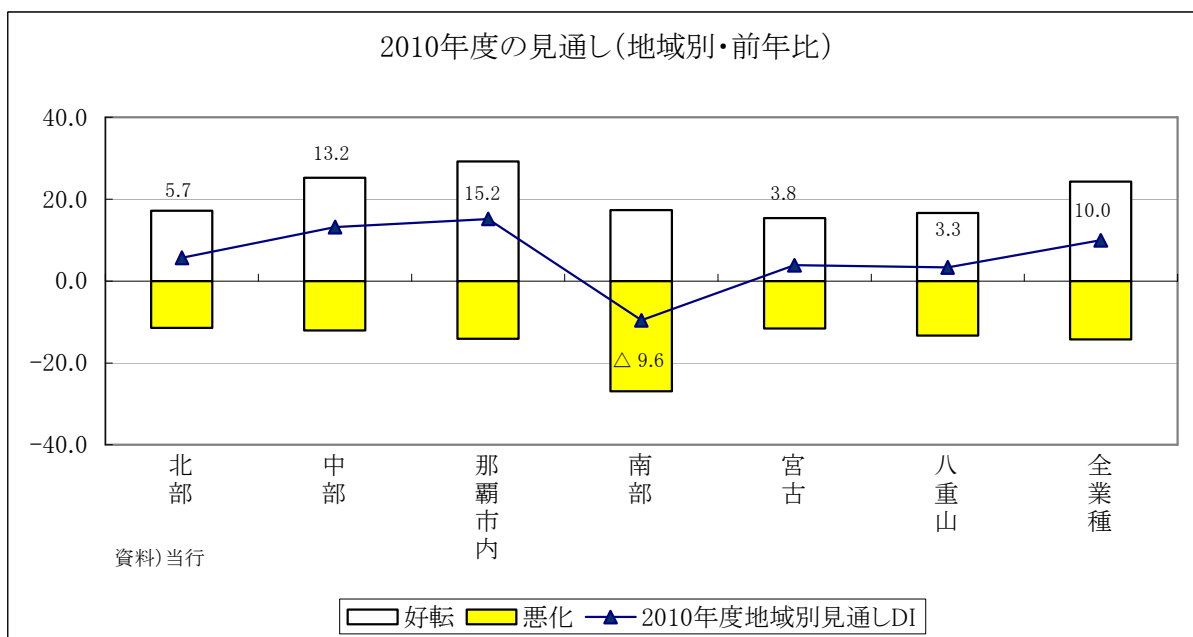
1. 業種別見通し

2010年度見通しDIをみると、全体的に景気の回復、それに伴う観光客数の増加が期待されています。建設関連においても、公共工事の動向は気になるものの、民間工事を中心に上昇が見込まれます。一方で、原材料価格動向の不透明感や売上単価の低迷は続くものと見込まれ、製造業(△1.8)や卸売業(△5.6)、その他(不動産等)の動きは弱い見通しです。



2. 地域別見通し

2010年度の地域別見通しは、那覇市内(15.2)、中部(13.2)、北部(5.7)、宮古(3.8)、八重山(3.3)と多くの地域で改善が見込まれています。那覇市内や中部地区は多様な業種が数多くあり、景気回復の期待感が強いようです。南部地域(△9.6)は土木業が多く、公共工事の縮小が懸念されています。



V.まとめ

業況DIの推移(業種別)

- ・ 当期（2010年1-3月期）の業況DI調査の結果は0.2と改善の動きとなりました。冒頭にも述べたように、県内の景況感は前年同期と比べ緩やかに回復に向かっているようです。
- ・ 今回の比較対象となった2009年1-3期は、公共工事の減少や原油高騰・改正建築基準法の影響などが続く中、不動産開発の中止が相次ぎ、入域観光客数も減少を続けるなど、非常に厳しい経済環境にあったことをふまえると、本調査は多少その反動の影響が出たと思われまます。
- ・ 当調査は前年同期との比較であり、「昨年よりは良くなった」との回答が多く、業況改善の動きが見られた土木業、建築業においても受注競争はますます厳しいものになっています。また、砂糖や小麦、原油など原材料価格の動向が経営に即座に反映しています。
- ・ 各業種において共通していることは、景気が低迷している中で、人員調整を含めた経費削減の結果として利益を確保し、販売単価を落とし売上高を確保している状況が続いています。
- ・ 来期（2010年4-6期）の業況見通しDI（3.1）及び2010年度の業況見通しDI（10.0）を見ると、より改善の方向へ向かっていますが、観光需要の回復を含めた景気の浮揚への期待感も込められており、今後の動向に注視する必要があります。

(おきぎん経済研究所 研究員 上地良平)

